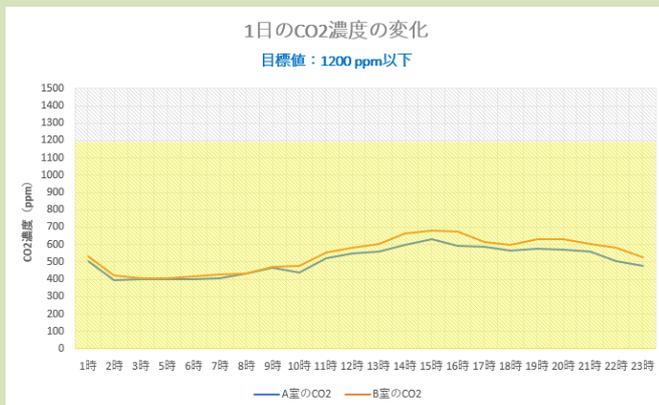
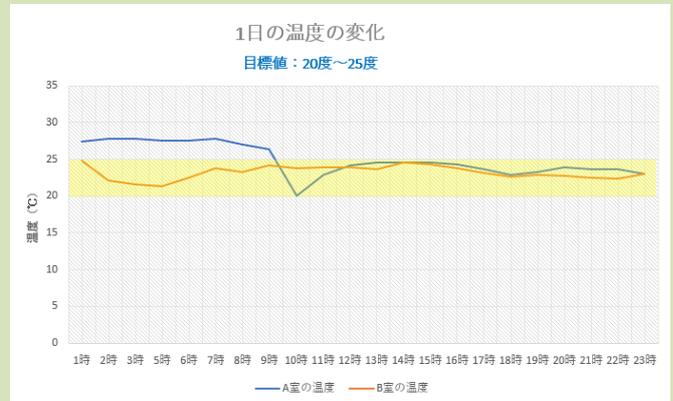
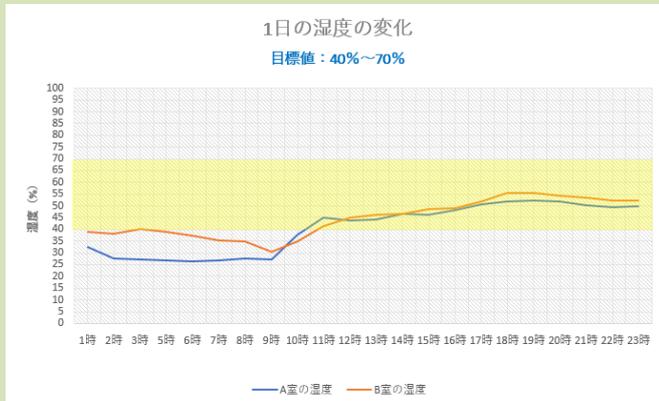


小原病院では、新型コロナウイルス感染防止のため

全病室の温度・湿度はもちろん換気状態もモニタリングしています

下図は、ある1日の、当院の2室における温度・湿度・CO2濃度の推移（サンプル）です。



※全病室設置の環境(温度・湿度・CO2)モニター

温度とウイルスの関係 》 20°C～25°Cを維持することが望ましい

新型コロナウイルスは、気温により感染力維持期間が変化し、低温であるほど感染力維持期間が長くなります。37°Cで1日間、22°Cで7日間、4°Cで14日間の期間感染力が維持されるといわれています。

湿度とウイルスの関係 》 40%以上の湿度に保つことが望ましい

湿度の高い状況では、ウイルス飛沫は比較的速やかに地面に落下します。湿度が40%以下では飛沫の水分が蒸発して軽くなるため、空中を漂う時間が長くなります。また、40%以上の湿度に保つことで気管支にある「せん毛」はウイルスを外に排出しやすくなり体内への定着を阻害します。

換気とウイルスの関係 》 換気が十分に行われないとエアロゾルによる感染のリスクが高まる

ただし、換気ばかりを優先すると、温度と湿度は外気の影響を大きく受けて低下します。そこで、当院では、温湿度を保ちつつ、十分な換気（CO2濃度1200ppm以下）が行われているかどうか、環境モニターを全病室に設置して監視しています。温度、湿度、CO2濃度が基準値を逸脱すると、担当者のスマートホンに警告が届くようになっており、その際には、必要箇所の温湿度調整または換気を実施しています。

小原病院は、入院患者さんおよびご家族の皆さんに
少しでも安心していただけるような環境整備をして参ります。